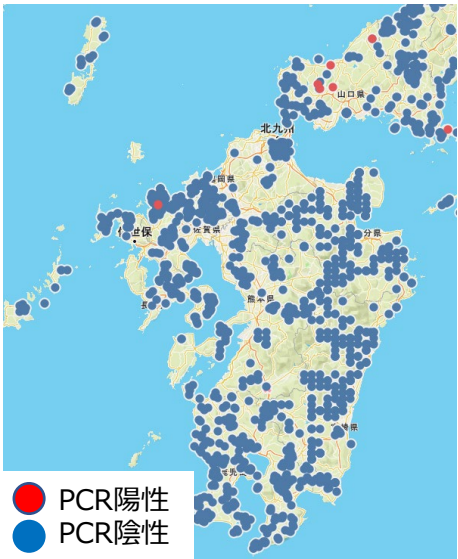


今回の確認を受けた九州地域における豚熱対策について①

- 令和5年8月、佐賀県の飼養豚農場で豚熱を確認して以降、**サーベイランスを強化**するとともに、野生いのししにおける陽性が確認された場合等に備え、**県協議会の設立や演習を通じて経口ワクチンの散布体制を整備してきた。**
- 九州各県の野生いのししにおける豚熱の感染状況を把握するため、**サーベイランスを強化・徹底**するとともに、野生いのししを介した感染拡大を抑え、環境中のウイルス低減を図るため、捕獲の強化を行う。佐賀県においては、野生いのししに対する**経口ワクチンの散布を行う。**

九州地方のサーベイランスの強化・徹底

- ・ 各種対策を有効に実施するため、浸潤状況を把握することが重要
- ・ 九州各県の野生いのししにおける豚熱の感染状況について、サーベイランスを強化・徹底し、感染の有無を把握していく必要



県名	検査頭数
福岡県	274
佐賀県	419
長崎県	282
熊本県	323
大分県	369
宮崎県	359
鹿児島県	311
合計	2,338

令和5年8月29日から令和6年5月末までの検査状況と検査頭数

佐賀県における経口ワクチンの散布

- ・ 今般の確認を受け、佐賀県を経口ワクチン散布推奨地域に指定
- ・ 特に、感染確認地域周辺では、迅速かつ重点的に経口ワクチン散布を実施
- ・ 経口ワクチンについては、60万個以上を確保済（5月末時点）
- ・ 猟友会等と連携して引き続き捕獲の強化を実施

これまでの取組

○経口ワクチン県協議会の設立

散布の枠組となる県協議会について、令和5年中に九州全県で設置済。

○経口ワクチン散布演習の実施

令和5年に宮崎県、佐賀県で実施。各演習には近隣県の担当者も参加。農林水産省、農研機構からも講師を派遣し、対応。



佐賀：佐賀新聞（11月11日）
福岡県、長崎県担当者も参加

なお、飼養豚では既に初回の豚熱ワクチン接種が完了

今回の確認を受けた九州地域における豚熱対策について②

- 我が国の豚の主産地である九州での豚熱の発生リスクがかつてないほど高まっているため、大臣からメッセージを発出し、危機感を共有するとともに、県、市町村、生産者など各地域の関係者の取組を徹底
- 特に、生産者に対しては、九州全域でのワクチン接種は行われているものの、ワクチン頼みにならないよう、飼養衛生管理を再点検し、ウイルスを農場に持ち込ませないよう取組を徹底

飼養衛生管理の再点検と徹底

- 人、車両、物等の農場への出入り時の消毒
- 野生動物の侵入防止対策の実施
- 万が一の発生に備えた埋却地等の点検及び確保

※ワクチンは接種し、免疫を獲得していても、完全に感染を防ぐものではないため、飼養衛生管理の徹底が重要



感染確認後の大臣会見や農林水産省豚熱・アフリカ豚熱対策本部において、大臣から「STOP！豚熱」のメッセージを発出

適時適切なワクチン接種の実施

- 既に九州各県では、全ての養豚場において、豚熱ワクチンを接種済
- 感染リスクの高い子豚に十分に免疫を付与するために適時適切にワクチンを接種

早期通報の徹底

- 飼養豚群の健康状態を日頃からの的確に把握
- 豚熱等の特定症状を認めた場合における速やかな家畜保健衛生所への連絡を徹底

佐賀県の野生いのししの豚熱感染確認を踏まえた緊急ワクチン散布について

緊急散布は、短期間に限定された範囲に、大量のワクチンを散布する一方で、高率な摂食率を確保する必要があり、高度な技術が必要である。このため、農研機構、動物衛生課及び九州農政局は技術協力を行うこととした。

1 対応者

(1) 国

- ・農林水産省
消費・安全局動物衛生課 永田 知史（課長補佐 野生動物・国際衛生企画担当）
九州農政局消費・安全部畜水産安全管理課 財津 舞（畜水産安全係長）
- ・国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門
動物行動管理研究領域 動物行動管理グループ 平田 滋樹（上級研究員）

(2) 佐賀県

- ・佐賀県農林水産部
生産者支援課
中部農林事務所佐城農業振興センター、東部農林事務所三神農業振興センター、唐津農林事務所東松浦農業振興センター、伊万里農林事務所西松浦農業振興センター、杵藤農林事務所藤津農業振興センター
- ・市町
唐津市、伊万里市、玄海町
- ・地元猟友会員

2 日程

- 6月9日 動物衛生課（永田補佐・密田係員）、佐賀県生産者支援課（北川副課長・田浦補佐・原係員）、平田上級研究員によるweb会議による計画素案作成
- 6月10日～11日 県：資材準備・資料作成・内部調整、国：資料作成・散布技術の検討
- 6月12日 午前：県庁での打合せ（経口ワクチン散布、サーベイランス・捕獲強化等）
午後：関係者打合せ（国、県、市町、地元猟友会員）
- 6月13日 緊急散布1日目 最重点エリア（半径2km）、唐津市東部・南部
- 6月14日 緊急散布1日目 最重点エリア（半径2km）、唐津市北部・玄海町

佐賀県の野生いのししの豚熱感染確認を踏まえた緊急ワクチン散布について

- ・昨年11月の散布演習の経験に基づく入念な準備、市町と猟友会の協力体制のもと、散布場所の検討が進んでいた。
- ・国や農研機構から技術的に高度な専門的指導を実施、地元との連携を強化し対応できた。

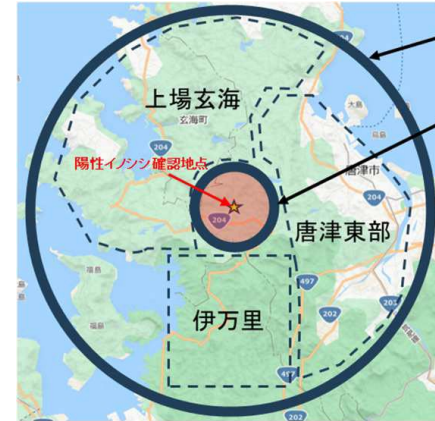


2日間で1,600個の経口ワクチン散布を実施

散布1日目（6月13日） 合計800個

散布実施者：唐津1班（最重点エリア）7名、唐津2班（唐津市東部～南部）5名

- ・唐津農林事務所において、散布実施者向けに散布方法や留意点を説明
- ・同時にマスコミ7社向け報道対応（当日夕刻よりTV3局、新聞4社で報道）
- ・散布は午前9時～17時まで（約8時間）
- 最重点エリア：600個（4地点）
- 唐津市東部～南部：200個（15地点）



散布2日目（6月14日） 合計800個

散布実施者：唐津1班・2班、伊万里1班（伊万里エリア）、玄海1班（玄海上場エリア） 計21名

- ・最重点エリアの1日目の散布で、誘引餌（圧ペントウモロコシ）の使用量が予想を上回り、2日目の散布で不足することが懸念されたため、2日目朝に資材センターにて追加購入。
- ・最重点エリア：400個散布
- 伊万里エリア：200個散布（15地点）
- 玄海上場エリア：200個散布（15地点）

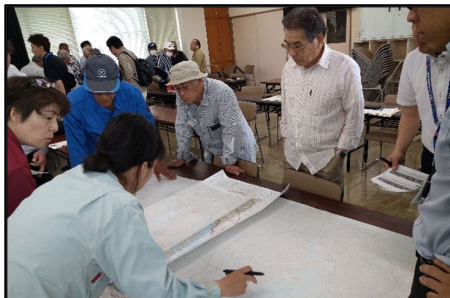
徹底的な消毒を実施

散布中

- ・タイヤ消毒
- ・靴底消毒（最重点エリアでは地点ごとに踏み込み消毒槽を設置）
- ・全身消毒（重点エリアでは、毎回防護服・エプロンを全て交換。他エリアでは徹底消毒による。）

散布終了後

- ・徹底的な洗車・消毒（車内については、アルコール消毒だけでなく、足マットを外して洗浄・消毒を実施。）
- ・長靴の踏込み消毒・浸漬消毒を実施。



散布ポイント確認の様子



散布の様子（獣道を辿り森へ）

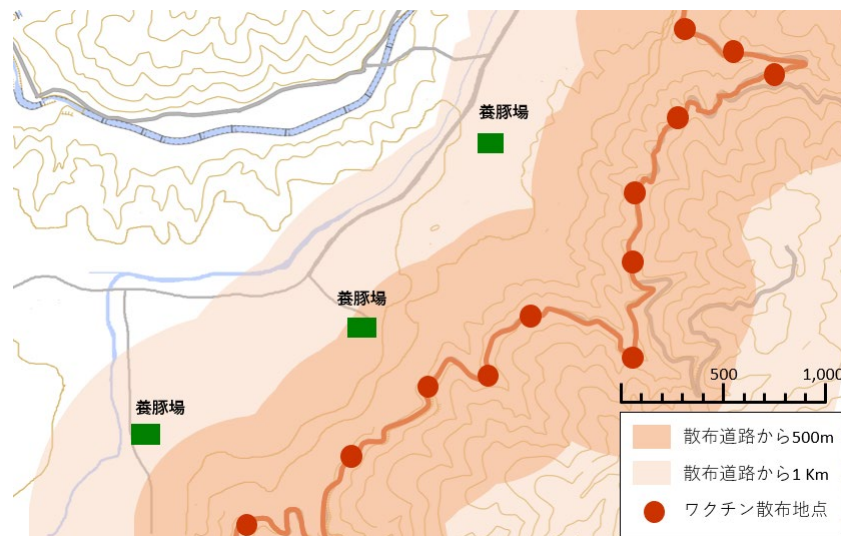
豚熱経口ワクチン散布の効果と方向性

- 平成31年3月、岐阜県及び愛知県において、経口ワクチン散布を開始し、現在までに38都府県が経口ワクチンを散布（令和6年6月6日時点）。
- 経口ワクチンの散布を早い時期から実施している中部地方の県では、**野生イノシシの豚熱陽性率がピーク時から低下**をしている中でも、**免疫獲得イノシシを継続的に確認**。また、研究においても、疫学的検証により散布効果として、散布地点周辺では免疫獲得イノシシの割合が高いことを確認。
- 散布により、**野生イノシシを介した感染拡大を抑え、環境中のウイルス低減を図る**ことで以下を目指しているところ。
 - ① **農場への感染リスクの低減**
 - ② **まん延スピードを弱め、未確認地域への侵入を防止**
- 農場への感染リスクの低減を意識した散布では、イノシシの生息や感染状況だけでなく、**農場の分布や規模を踏まえて、散布地点を選定**。

（参考）養豚場等周辺での経口ワクチン散布及び感染確認初期の緊急散布での散布地点の考え方

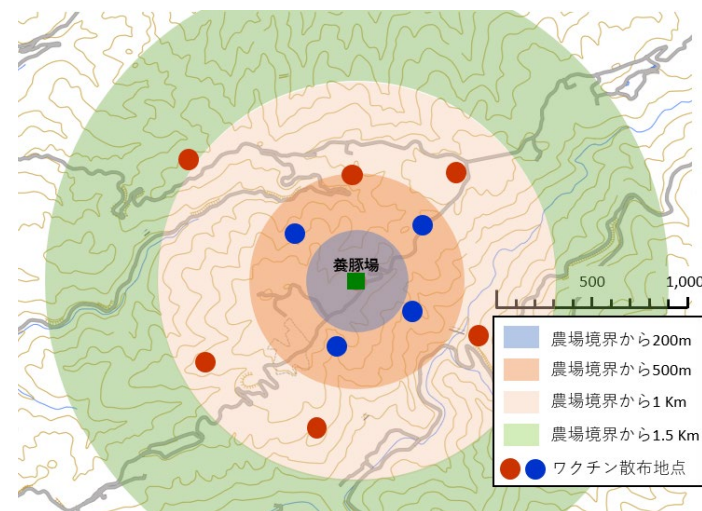
（豚熱経口ワクチンの野外散布実施に係る指針より引用。）

A:エリア型散布



- ・道路や河川等の障壁でイノシシの動線が見えやすい場合
- ・農場が多く集中しているエリアがある場合
- ・豚熱感染確認直後で緊急的に感染拡大を抑制したい場合

B:集中型散布



- ・農場が分散しており、ピンポイントの対策が必要な場合
- ・農場周辺の野生動物対策が適切に実施されている場合、農場近く（●）でも、散布が可能と考えられる。